

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122AF03	中国語 A	中国語基礎コミュニケーション	李 婧	1 年次後期	1
科目区分	基 礎	キーワード	ピンイン、四声、声調変化、自己紹介		
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。			
教員への連絡方法		教員の短大メールアドレス			
講義の目的	本授業は、中国語を使用した基礎コミュニケーション力を身につけることを目的とします。政府が2030年の訪日外国人旅行者数6,000万人を目指していることから、今後、中国語圏からさらに多くのインバウンドが見込まれます。これを踏まえて、鉄道・交通業界を目指されるみなさんが将来業務において活かせるような中国語スキルの基礎固めを行います。				
到達目標	① 中国語の発音記号（ピンイン）を理解した上で発音し、読み書きができ、簡体字も習得します。 ② 中国語の基礎文法が理解できるようになります。 ③ 自分のことを表現する中国語を理解し、使えるようになります。				
講義内容	テキストに沿い、発音と単語、文法を積み上げていきます。具体的には、第6講までは発音のポイント説明と解説、発音練習を行います。第7講以降は、テキスト本文の朗読、文法の説明と解説、会話練習を行います。適宜、映像や写真なども使い、中国の歴史・文化や人々の生活に関心を持つ機会もつくりたいと考えています。また、交通場面で用いられる中国語も紹介します。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	中国語イントロダクション、教室で使う中国語、数字、ほか		
	第2講	第一課：発音（1）	発音（声調、単母音、複母音）		
	第3講	第二課：発音（2）	発音（声母表、無気音と有気音、そり舌音、ほか）		
	第4講	第三課：発音（3）	発音（鼻音[-n,-ng]を伴う母音、またしても消えるe、ほか）		
	第5講	第四課：発音（4）	発音（3声+3声→2声+3声、bu [不]の声調変化、ほか）		
	第6講	第一課～第四課のまとめ	発音の復習（日本人の苦手な音、声調変化、ほか）		
	第7講	第五課：どうぞよろしく	文法（人称代名詞、挨拶ことば、“是[shì]”、“吗[má]”）		
	第8講	第六課：お名前は？	文法（姓名の言い方、“呢[nē]”、呼びかけのことば、“吧”）		
	第9講	第七課：ご出身は？	文法（指示代名詞、“的”、“都”と“也”、動詞述語文）		
	第10講	第五課～第七課のまとめ	重要文法事項の復習		
	第11講	第八課：飲み物は？	文法（疑問詞、助動詞の“想”、反復疑問文、“喜欢”）		
	第12講	第九課：おいくつ？	文法（数詞、年齢の言い方、量詞、“有”）		
	第13講	第十課：和食はいかが？	文法（“过”、“请”、“还是”、形容詞述語文）		
	第14講	第八課～第十課のまとめ	重要文法事項の復習		
第15講	総まとめ	第一課～第十課までの重要事項の復習・確認			
指導方法	テキストにそって進めていきます。一回授業の大まかな流れとしては、前回の復習→その日のポイント解説→単語の確認→テキスト本文の読解と朗読→文法説明と解説→会話練習→まとめの順に進めます。				
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	本試験（筆記試験）50%、平常点（小テスト・授業内課題・発言）50%として総合的に評価します。				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	授業内で解説する。				
テキスト	『日中いぶこみ交差点』（2017）、相原茂・陳淑敏・飯田敦子著、朝日出版社（ISBN：978-4-255-4586-9）（※エッセンシャル版〔青色の表紙〕ではなく、通常版〔緑色の表紙〕を入手してください）				
参考文献	授業内で紹介します。				
実務家教員による授業		教 員 経 歴			
特記事項	受講生の状況や希望によって授業進度などを調整する場合があります。				